

新年あけましておめでとうございます。

いつも多大なるご協力をいただき、心より感謝しております。

昨年は、新型コロナウイルスが“5類”へと移行し、“コロナ”というインパクトが次第に弱くなっていきました。社会全体がかつての日常生活へ戻ろうという一方で、実は治まっていない新型コロナウイルスの存在に悩みつつも『感染しない・させない』ことを引き続き意識し、取り組んできました。様々な環境で活動する職種にもかかわらず、5類移行後も大きな感染等が起こらずこられたのは、皆様のご理解とご協力のおかげです。心から感謝致します。

引き続き力を合わせて活動していきたいと思ひます。

本年も何卒よろしくお願ひ致します。



児童デイサービス プレイズホーム 管理者 菊池 憂

昨年、プレイズホームとして、とても嬉しいことがありました。

卒業生の滝沢悠太さんが10月26日(木)、27日(金)に職業体験でプレイズに来てくれました。子どもたちは、優しくて面白いお兄さんがたくさん遊んでくれて、大喜びでした。

職業体験が終わってからも「ゆうたさんは？」と言う子がいるくらい、関わった子どもたちにとって、とても大きな存在になっていました。また、悠太さんが笑顔で楽しそうに関わる姿を見て、私たちも初心を思い出す機会となりました。

子どもたちが支援を受けたり、何かを学ぶうえで、『楽しい』と思えることは、何よりも大切なことだ…と改めて感じました。

色々な学びの場があった中からプレイズを選んでくれたことが、とても嬉しかったです。

そして、個人的なことにはなりますが、『プレイズの卒業生と一緒にプレイズで働く』という私の夢がかなった二日間となりました。

職業体験だけでは終わらず、冬休みにはアルバイトに来てもらいました。

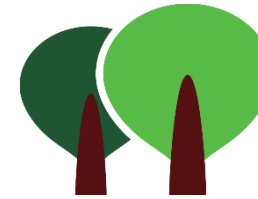
また夏休みにも来てくれるそうなので、楽しみにしています。

本年も、よろしくお願ひ致します。



アフター通信

2024年1月15日 NO.84
特定非営利活動法人
アフタースクール運営会
文責 理事長 矢野 潤



「石山の地域と共に成長して

「未来」を共に創る!!」

理事長 矢野 潤

日頃より、当法人の運営ならびに活動へのご理解とご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

2023年は、世界的には、各地での戦争、紛争が勃発し、物価の高騰もあり、生活への影響もありました。そして、2024年早々には、能登半島地震で甚大な被害が出ました。また、コロナ感染症、インフルエンザ感染に加えて、本会としても大きな試練の年となりました。対応にあたっては、関係機関各位様の適切にご指導、ご鞭撻を賜り、何とか乗り越えようとしています。

心より感謝いたしております。

2024年は、アフタースクール運営会の全職員が心を引き締め、利用者様の支援の向上に努め、前進していきたいと考えております(上記のタイトルは、本会の今年のスローガンです)

また、昨年の11月には、会員、利用者の保護者の方々を対象とした「障がいのある方たちが安心して暮らしていくために」という演題で、研修会を開催し、多くの方々に参加していただきました。この研修会では、障がいの状況によって「共同住宅」「グループホーム」「入所施設」の大きく3つの住む場所があり、どれも重要であることを参加者は、理解することができました。今後も関係者の方々と連携して、利用者様の将来について考えていき、色々な情報をお知らせしていきたいと思ひます。

最後になりましたが、本会は、2024年で設立24周年を迎え、石山地区に事業所を集約して4年目を迎えることとなります。

本会の設立当初は、障がいのある方たちの公的な支援もあまりない時代だったと聞いております。しかしながら、応援して下さる皆さま方の協力のおかげで、現在、本会は、4つの事業所(居宅介護サービス EDI、児童デイサービスプレイズホーム、生活介護事業所くれ-る、相談室こぼん)をこの南区の石山の地域で地域の方々と共に活動することができています。

2024年も、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



↑ 研修会の様子



「多様な手段で、音楽を楽しみましょう」

アフタースクール応援団 佐藤満雄

先日の読売新聞に、脳性麻痺の方などが一本指で演奏すると伴奏がついてくるピアノ「だれでもピアノ（ヤマハ）」を使用して、オーケストラとベートーベンの第九を演奏するという記事が載っていました。素晴らしいですね。

また最近、視線導入装置を使用しての演奏等、どんなに障がいが高くても音楽を楽しむことができる時代になって来ています。

minnaでは、障がいのある人も無い人も共に楽しむユニバーサルコンサートを開催して既に3回終了しました。脳性麻痺の重度の方も楽しそうに参加しています。

皆さんも参加しませんか！



理事 大久保 房恵

社会的には、善いこと悪いこと様々あった2023年でした。

皆様にとっては、どんな一年だったでしょうか。

児童デイサ-ビスプレイズホームが石山に移転して3年、各事業が一体となって協力体制を組むことができる環境が整いつつあることをうれしく思います。

利用者様のニーズに応じ、職員が一緒になって法人としての役割を果たしながら、この石山地域に長く根付いてくれることを願っています。

今年は、戦争や紛争のない世界の平和を取り戻し、苦しみや悲しみのない毎日を過ごせるような幸福が訪れることを夢見ています。



「今年に向けて」

理事 古内 一枝

コロナウイルス感染症は5類の感染症に移行され、何となく「胸をなで下ろす」気分になり、さあ、これから今までと違って色々な活動ができると思っていたら、あの猛暑！ また、秋がほんの少し見えたかと思ったら、黒い雪虫(?)の到来。そして、札幌は、豪雪とならないけれどそこそこ寒い。こんな風に季節が巡って、あっという間に一年が過ぎてしまいました。

私は、理事という役をいただきながら、職員の皆さまの活躍される場を訪ねたこともなく過ぎてしまったなあーと反省。

今年は、機会を見て、見学(?)訪問いたします。よろしく願いいたします。

これからも地域とつながって仲良く楽しく、一緒にできることを見つけましょう!!



「新年を迎えて」

理事 燕 信子

昨年はいろいろな意味で勉強になった一年でした。今年はその成果を出していきたいものです。

昨年末より職員と理事3名との「意見交流会」を開始しました。今後も職員と日程調整をしながら、「より良い法人」を目指して開催していきます。

「力を合わせて」

監事 佐藤 健一

3年間猛威を誇った新型コロナ感染も、少しずつ収束に向かっているのでしょうか。近頃は、免疫力低下によるインフルエンザの流行を心配するニュースへと変わってきています。

昨年のアフタースクール運営会では、解決しなければならない課題の対応に追われました。まずはどんな現状なのか、何が問題なのかを一つ一つ解き明かし具体的な方策を考えなければなりません。

心ならずも監事の立場ということで、会員や保護者、職員の皆様に堅苦しいお話をしなければならないことになり、皆様には少なからずご迷惑をおかけしました。

社会の意識が変わり関係する法令や制度が変わりつつある中、課題の解決に至るにはまだまだこれからと思います。まずは利用者さんを第一にアフタースクールに関係するすべての皆様が力を合わせ、解決に向けて日々の努力を積み重ねていきたいと思えます。



「辰年・飛翔の年へ！」

監事 長谷川 和之

いろいろな事がありつつも、職員の皆さんの努力と利用者や地域の皆様の応援で無事新年を迎えることができました。運営上の間違いやコミュニケーションが十分でなかった職場の現状に気づいたことを幸いと、その改善とともに新しいことにチャレンジするアフタースクール運営会となっていくことを期待しています。

今年は辰（龍）の中でも甲辰（きのえたつ）の年にあたり、「成長」「一番」という意味を含むそうです。天まで届く勢いで上り成長する一年にしていきたいと思います！

生活介護事業所くれ-る管理者 楡金 杏子

あけましておめでとうございます、昨年は大変お世話になりました。日頃のご厚情に深謝致します。

2023年は、2020年から続いていたコロナ感染症が5類になり、以前のような生活が戻ってきましたね。くれ-るでも今まで活動を控えていた買い物活動や月1回の外出活動を行うことができました。



ウイルス自体がなくなったわけではないですが、本当に大変な時期を皆様のご協力で乗り切ることができ、いつもの日常が戻ってきたと思います。

改めて、ご協力有難うございました。

くれ-るが開所して、13年目、私が居宅介護サービスから生活介護立ち上げの為に異動してきた時に未就学児さんだった子ども達が高校卒業を迎える年齢になり、生活介護事業所で出会った方々も自宅からグループホームなどに生活の場を変えている姿を見かけると、とても早い年月を感じずにはられません。



これからも生活介護事業所くれ-るが皆さんの生活の一部として、みんなで仕事をしたり、遊んだりしながら毎日を健康に過ごしていけたらと思っています。

今年も宜しくお願い致します。



